

一般社団法人日本人間工学会第 65 回理事会 議事録

1. 開催日: 2023 年 3 月 2 日 (木) 18:00~20:34

2. 開催場所: Zoom による遠隔会議

3. 出席理事: <敬称略>

・理事会構成員(27 名・定足数 14 名以上)

(理事): 鳥居塚崇(理事長), 中西美和(副理事長), 青木洋貴(学術), 青木宏文(広報), 石橋圭太(若手支援), 榎原毅(編集・国際・国際誌・将来構想), 笠松慶子(財務), 狩川大輔(安全), 河合隆史(財務), 鴻巣努(表彰), 境薫(若手支援), 佃五月(企業活動), 中川千鶴(総務), 能登裕子(学術), 松田文子(広報), 持丸正明(将来構想), 横井元治(総務), 横山詔常(企業活動)

[18 名]

(理事兼支部長): 小林大二(北海道・第 65 回大会), 三林洋介(関東), 斎藤真(東海), 小谷賢太郎(関西・国際), 石原茂和(中国・四国), 庄司卓郎(九州・沖縄)

[6 名]

[計: 24 名]

(欠席者): 神田幸治(若手支援), 久保博子(学術), 佐藤洋(JENC), 高橋信(東北)

・オブザーバー: 井出有紀子(認定機構), 下村義弘(第 64 回大会), 八木佳子(認定機構), 吉武良治(表彰)

・監事: 赤松幹之

・事務局: 西原彩, 米倉裕美

※全員ネット会議出席者

4. 議事概要

定足数 14 名を超える 24 名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款に従い理事長を議長として議事を進行した。

【審議事項】

(1) 第 1 号議案 2023 年定時社員総会日程について(理事長)

鳥居塚理事長より、5 月 27 日(土) 午後に 2023 年定時社員総会と講演会またはパネルディスカッションを開催する旨説明があった。場所は慶應義塾大学日吉キャンパスまたは矢上キャンパスを予定しており、懇親会も開催したい。

(2) 第 2 号議案 2023 年定時社員総会における各種表彰受賞者について(表彰委員会)

吉武表彰委員長より、功労賞 2 名、トップ 10% 査読者賞 5 名、標準化貢献賞 4 名の推薦があり、承認された。事務局より受賞お知らせの連絡をする。

(3) 第 3 号議案 研究部会規程の改訂案について(総務)

鳥居塚理事長と中川総務理事より、前回理事会からの継続審議事項として研究部会規程第 6 条(報告と研究成果発表)の改訂案の説明があった。会の研究成果を会員や社会へ広く知らせるための成果発表について、改訂前は実施形態(①発表②投稿③HP)を提示するのみで規定はしていなかったが、改

訂案では、④セミナーを加えた上で①～④のすべてを 1 回以上は実施することと変更した。また、設置期間を 3 年以下とする場合は 2 つ要件を減らせることも追記した。改訂内容について審議を行った。

研究部会によっては、課題を共有して各自の研究に生かす部会の性質上、論文を執筆することがむずかしいとの意見があり、部会全体で論文を作成するわけではなく、部会員のどなたかが執筆し、部会との関わり(研究の一部は部会での議論から着想を得た等)を記載してもらえれば、それでも良いと説明があった。

【意見交換の内容】

- ・論文投稿は原著論文にこだわっていないので、部会の活動を「実践報告」や「リサーチ・イシュー」で執筆いただければ、投稿しやすい。
- ・今回の改訂の一番大事な目的として、せつかくの各研究部会の良い活動をいろんなところで人目に触れるようにし、新メンバーが増えるなどの効果を期待しているので、研究部会には前向きに捉えて欲しい。
- ・過去にも検討してきた内容であり、今回の改訂案を実施することに賛成。

榎原編集委員長より、論文種類の詳細について下記説明があった。

原著と総説以外の 5 区分は実践の取り組みを紹介する区分で査読基準も異なる。特に「実践報告」と「リサーチ・イシュー」は部会の活動を投稿するのに合っているなので、ぜひご投稿いただきたい。また、研究部会の取り組みを学術論文として J-STAGE にアーカイブとして残してほしい。

審議の上、改定案に加えて「実践報告」と「リサーチ・イシュー」が適している点などを補足説明した上で、各研究部会に連絡することを確認し、改定案について承認した。今後更新する部会と新規部会が該当し、現在進行中の部会には該当しないことを確認した。

(4) 第 4 号議案 3 研究部会(ワーク・アーゴノミクス、アーゴデザイン、航空)の継続申請について(総務)

中川総務理事より、今期継続申請が提出された 5 研究部会には第 3 号議案で改訂した規程内容をご説明し、了承いただけた場合には継続承認としたい旨説明があり、審議の上承認された。

(5) 第 5 号議案 若手支援にかかる会員資格の改正について(若手支援委員会)

石橋若手支援副委員長より、前回理事会からの継続審議事項「減免制度」と「休会制度」について各種規定等を確認したところ、(1)減免制度については定款の改正は不要で、次回総会で承認を得れば運用開始できるので、詳細を決定したい旨説明があった。(2)休会制度については、定款の改訂・登記等の手続きが必要になるので、今後時間をかけて検討する。

・準会員(学生)から正会員へ移行した場合の会費の減免制度

減免期間及び金額について、確実に会員増につながる、かつ準会員を経ずに入会する正会員との不公平感を考慮したバランスが必要との説明があり、いくつかの案を審議の上、減額制度ではなく、卒業後 2 年は準会員(学生会員)を継続できる制度を新設することを決定した。学生会員の期間は考慮しない。2 年経過した後に正会員として継続してもらえるように働きかけが必要。

(6) 第 6 号議案 特集記事企画案について(編集委員会)

榎原編集委員長より、企画内容は調整中で、次回理事会で提示する旨説明があった。今回は審議無し。

(7) 第7号議案 IEA 人間工学定義和訳(試訳の修正)について(国際協力委員会)

小谷国際協力委員長より、HPに掲載している試訳についての意見募集に2件のコメントがあり委員会で検討した上で、補足を付けた修正案を作成した旨説明があった。審議の上、Profession の具体的な意味を IEA に照会等で確認した上で、次回理事会にて再度確認することとなった。IEA の HP に本定義の経緯が載っているとの情報があった。「ウェルビーイングとシステム全体のパフォーマンス『と』の『と』」は並列助詞なので省略されることもあるが、残してよい。

【報告事項】

(1) 総務報告

(1-1) 第64回理事会議事録について報告した。

(1-2) メールによる審議および報告事項等の結果について報告した。

(1-3) 会勢報告・新入会と退会

2023年2月末現在、会員数1,282名(+13名)、賛助会員21社22口。

(1-4) 学会セミナーの開催について(理事長)

鳥居塚理事長より、開催が遅れているが、JENC と協力して ISO 関連のセミナー開催準備を進めている旨報告があった。1回目は全体説明を無料で開催し、2回目から有料とする予定。

(2) 財務報告 1月度収支計算書

笠松財務理事より、1月度収支計算書について例年通りの旨、報告があった。

(3) 第64回大会(2023年9月7~8日)準備状況報告

下村大会長より、大会HPのオープンが3月に延長したこと、特別講演はウェルビーイングの専門家2名との大会準備報告があった。

(4) 担当・委員会報告

(4-1) 広報委員会

青木委員長より、GP賞の1次投票を実施したこと、来年度のKANSEI“感性”サロンを共催し下村先生に講演いただく予定であることの報告があった。今後の活動として、学会のLINE公式アカウントを無料の範囲で作成して情報発信を委員会で実施すること、子供の賞を新設したいとのご提案があり、進めることになった。

(4-2) 編集委員会

榎原委員長より、学会誌の発行は予定通り進んでいるとの報告があった。

(4-3) 国際協力委員会

小谷委員長より、IEA評議会(10/18-19チリ)に3名の評議員が出席予定であること、ACED評議会(12/13 インド)に複数名参加予定との報告があった。日韓共同シンポジウムは第64回大会時に開催する。5/12-15にIEA会長が来日するので、国際協力委員会主導でイベントを開催できないか検討する。IEAフェロー募集が開始したが、日本は最近候補者を出していないので、推薦者情報があれば知らせてほしい。推薦要件は会員10年以上、国際レベルで貢献していることで、4/30締切。ACEDが12/14-16に開催されるので、ぜひ参加してほしい旨呼びかけがあった。

(4-4) ISO/TC159 国内対策委員会

今回はなし。

(4-5) 表彰委員会

吉武委員長より、論文賞と研究奨励賞、GP 賞については次回理事会で提出する旨報告があった。

(4-6) 安全人間工学委員会

狩川副委員長より、安全工学シンポジウム 2023 (JES 幹事学会) の準備状況について下記 3 件の報告があった。開催日は 6/22-6/23 に決定、JES からの講演として早稲田大学小松原先生に OS をお願いした、前回理事会で承認いただいた共催金の値上げ額は 5 万円ではなく、3.5 万円に抑えられた。

(4-7) 学術担当

今回はなし。

(4-8) 人間工学専門家認定機構

八木機構長より、2 月 18 日 (大阪会場) で認定試験を実施し、受験者 4 名、合格 2 名だったとの報告があった。今回も英語受験に対応した。機構の総会・講演会を 4/14 (金) に開催する準備を進めている。

(4-9) 若手支援委員会

石橋副委員長より、人間工学専門家認定機構の発案により、若手支援委員会と連携して、準専門家取得を学生へ広報するための OS を、第 64 回大会時に開催する検討を進めている旨、報告があった。

(4-10) 企業活動推進委員会

佃委員長より、学会員と機構会員の企業の方にアンケートを実施する準備を進めている旨、報告があった。

(4-11) 国際誌検討委員会

今回はなし。

(4-12) 子どもの ICT 活用委員会

今回はなし。

(4-13) 将来構想・普及委員会

持丸委員長より、12 月に委員と検討した内容について報告があった。学会としてのメッセージの発信をしっかりと進めるために、官公庁に積極的に働きかけを進めていきたい。

(4-14) PSE 委員会

鳥居塚委員長より、IEA コンピテンシーの和訳を認定機構と協力して進めており、次回理事会では成果を報告できる予定との報告があった。

(5) 支部報告

(5-1) 北海道支部

小林支部長より、2024 年の全国大会の準備を進める旨の報告があった。

(5-2) 東北支部

狩川理事より、3 月 4 日 (土) に研究会を安全人間工学委員会と合同で開催する旨紹介があった。

(5-3) 関東支部

三林支部長より、3 月 17 日に JAXA で講演会・見学会を開催する準備を進めている旨報告があった。

(5-4) 東海支部

斎藤支部長より、3 月に支部総会を開催する準備を進めている旨報告があった。

(5-5) 関西支部

小谷支部長より、2月24日に見学会を開催し、自動運転バスの試乗会と意見交換会を実施した旨報告があった。報告記事を学会誌に掲載予定。

(5-6) 中国・四国支部

石原支部長より、第63回大会の残務を完了し、3月末までに支部理事会を開催し、2023年支部大会の準備を開始する予定との報告があった。

(5-7) 九州・沖縄支部

庄司支部長より、2023年支部大会もハイブリッドで開催予定との報告があった。

鳥居塚理事長より、2023年の支部大会開催情報をまとめてHPや学会誌に掲載し、学会員の方に分かりやすくアナウンスできるようにしたい旨、説明があった。

(6) 協賛等の依頼

合計8件の協賛等依頼について報告があった。

(7) その他

榎原理事より、日本産業学会が中心に進めているAMEDヘルスケア社会実装基盤整備事業について紹介があった。連携8学会のうちの1つの学会として当学会も大須賀先生が参加している。今後も活動のご紹介をしていきたい。

今後の理事会日程について

鳥居塚理事長より、次回第66回理事会は4月後半～5月前半に開催し、第67回理事会は5/27総会同日に開催する予定の旨、説明があった。

(8) 閉会

以上の議事を終え、20時34分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、代表理事、監事がこれに記名押印する。

2023年3月2日

代表理事

鳥居塚 崇^印

監事

赤松 幹之^印